

平成24年11月8日

横浜市長 林 文子様

NPO 法人ホタルのふるさと瀬上沢基金
理事長 角田東一
横浜市港南区港南台 9-30-31
連絡先 090-6191-1861

深田谷戸埋め立てによる地下水益化で災害の恐れ

東急建設が、平成24年1月に申請した「上郷開発都市計画提案」相談書において、総面積33ヘクタールの内、12.4ヘクタールの貴重な緑地を削って市街化区域に編入し、宅地及び商業地化する提案をしております。

この開発では、260,000m³の土砂搬入と製鉄遺跡が眠る山を削って、舞岡上郷線西側の深田谷戸と猿田谷戸を埋め立てる計画となっています。

ここを埋め立てれば、周囲から浸みだしている水で舞岡上郷線西側は地下水益化し、大きな地震が発生すれば、液状化による住宅への影響や舞岡上郷線の土手が崩壊するなどの恐れがあります。

深田谷戸はその名の通り、浸みだし水で底なし沼のような深い田んぼでした。深田谷戸と猿田谷戸は、耕作されなくなってから約30年経った今でも、周囲から常時浸み出す水により谷戸全体が深い湿地となっています。ここでもこの夏、多くのホタルが見られました。この生態環境は道路をはさむ東側の谷戸にも大きく影響を与えていると考えられます。

深田谷戸と猿田谷戸を現状のまま保全すれば、樹林地や湿地などの良好な生態系として、次世代に残す価値ある場所になると考えます。

深田谷戸・猿田谷戸埋め立てによっての地下水益化による災害時の影響に対し、市長の見解を伺います。

ホタルのふるさと瀬上沢基金は、「ナショナル・トラストで基金を集め、瀬上沢緑地の取得や借用を行い、自然環境と文化遺産を後世へ引き継いでいく」ことを目的としています。会員と寄付者数は、現在8,800人超となっています。

お金を出してでも瀬上沢の自然と文化遺跡を残したい、という強い意志を表わしている市民の声を重く受け止め、ご回答をお願い申上げます。

以上

建都計第 2252 号

平成 24 年 11 月 22 日

NPO 法人ホタルのふるさと瀬上沢基金

理事長 角田 東一 様

横浜市長 林 文子



「深田谷戸埋め立てによる地下水盆化で災害の恐れ」について（回答）

さきに陳情（平成 24 年 11 月 8 日）のありましたことについて、次のとおりお答えします。

現在のところ、都市計画提案は提出されておりませんが、今後、当該地区に関する都市計画提案書が提出された場合、本市では、御指摘いただいた点も踏まえた上で提案内容を評価し、都市計画決定や変更をする必要があるか否かを判断してまいります。

この旨ご了承いただき、貴団体の皆様によろしくお伝えください。